

## 新しいクラウドソース技術で違法入国者を追跡する権限を与えられた市民

米国では現在、メキシコからの違法入国者を取り締まるため、国境付近の特定地域に公共のビデオカメラを設置し、その画像をインターネットで閲覧できるようになっている。その新しい技術は、米国のみならずどの国からも特定地域の生の映像が見られ、住民がその違法行為を監視し、所轄の警察や検察に直接通報し取り締まることを可能にしている。その技術は米国市民に、自国を守るために行動を起こさせ、国境警備を支援する権限を与えるものとなっているのだ。

これと同様の技術とアイディアは、主要都市の犯罪を監視するため日本などその他各国で利用されており、地震や津波など緊急の場面での避難民の行動や自然災害の様子を映し出し、避難所に食料やその他支援物資を送ったりすることも可能だ。

米国では、新たな技術が、とくに違法麻薬や禁制品などの犯罪の取り締まりに大きく貢献することに着目しており、またそれはメキシコなどの国境地域から違法な物品が入ってくるのを監視するのに大いに役立つと考えられている。

### 【背景】

米国では、2005年から2009年にかけて違法に入国したメキシコ市民が150万人にもものぼったといわれており、それは、米国に永住するのが目的の市民をさす。そして同時に、400万人もの違法入国者が逮捕され、メキシコへ送還された。これは、アメリカにとってニュースや政治討論で毎回とりあげられる大問題である。違法に入国させないための取り組みとして多いのが、市民グループによる国境パトロールである。今現在、アメリカでは、この難問を解決するために、この技術の利点を生かしている。

### 【技術的解決策】

2008年には、“クラウドソース”と呼ばれるブルーサーボネットが立ち上がり、国境付近を監視するという難問の解決に協力してもらうため、ウェブ上のボランティア参加者を集めた。ブルーサーボネットは基本的に誰もがログインでき、特定地域をビデオ撮影することにより国境付近を監視するボランティア活動も可能である。そのウェブサイトは、“国境犯罪に立ち向かうための権限を市民に与えるという意味で、革新的で現代社会に即した条例である”という。ブルーサーボネットは、ボランティアがメキシコとの国境付近の広い範囲で、監視カメラのチェックにコンピューターを使うことを許可している。不正行為を行っている様子をボランティアがたまたま映像で見た場合は、メールでその事実を報告するようになっている。その報告が確かなものであると証明されれば、国境警備会社は不法入国者を逮捕するためにその場所に配備される。

ブルーサーボの Facebook ページ上でも、ボランティアや利用者が“4番カメラ上で右から左に5人ほどが走りぬけていった・・・”とが“今13番カメラに泳いでいる人が映っている“な

どのコメントを残すことができる。それらのメッセージは、シェリフと呼ばれる警察部隊にすぐさま伝えられ、犯罪や不法入国者を逮捕するに至る。そのメッセージは中央管理サイトで受信し、その他ボランティアからの別のメッセージと照らし合わせて確かめられる。この方法で犯罪行為の目撃情報が確かなものであると証明され、警察部隊が犯罪地区に配備されるようになる仕組みである。

ブルーサーボや LLC のようなブルーサーボネットを運営している企業は年単位の収益が 9 万 5 千ドルといわれ、その筆頭であるジェームズメディキスの名前が挙げられる。彼の会社はテキサスのサンアンジェロに拠点を置いている。プログラムに資金を供給して、テキサスの国境パトロールを支援するために、リック・ペリー州知事は、会社に 200 万ドルの補助金を与えた。

#### 【娯楽と社会交流の新しい形】

犯罪やその他の違法行為をビデオで監視し問題解決をはかるために、各コミュニティの住民がクラウドソーシングを通じて“仮想コミュニティ監視”という新しい流れを起こしている。世界中の誰もがどこにいても監視カメラを見ることができるのだ。米では生の映像をスクリーンで見ることができる「リアリティーTV」に類似したエンターテイメントの新しい形だ。この場合、ボランティアは社会のために直接行動を起こすことができ、犯罪の抑止に力を貸すことになる。このプログラムは楽しみながら参加することができ、時間を共有し成果を挙げる機会を与えるものである。多くの参加者は古くから住むシニア層の市民が多く、彼らは監視カメラの閲覧と同時に警察や国境パトロール隊を支援することが可能だ。そのいくつかは娯楽としても楽しめるが、市民が社会的に貢献することにも大いに役立っている。

#### 【クラウドソースによる解決策】

クラウドソースとは、専門知識を持っていないボランティアグループに問題解決をゆだねる方法であり、多くの人に広く公開し協力してもらうというものである。利用者とボランティアは、通常クラウドがオンラインコミュニティの形をとっているものと思っているが、ブルーサーボネットの場合は、ボランティアが彼らの時間で自由に仕事ができるというものである。そのいくつかの利点は

- ・ 比較的安いコストで迅速に問題解決ができる。
- ・ 常に支払いが生じるとは限らない、つまりコストがかからない。
- ・ テキサスの州の例では、広い範囲から人的資源を集めることができるので大量の作業スタッフを雇い入れる必要がない。
- ・ 問題解決への役割を与えられ、直接関わることを通じて政府を支援できることは市民にとっての喜びである。

クラウドソースをグローバル社会の考え方に当てはめたこのケースもそうだが、米国への違法入国者の問題を迅速に解決させることで、地方行政が大いに助かるというものである。

ブルーサーボネットのウェブサイトによると、

テキサス州の国境保安連合 (TBSC) はコミュニティ映像監視システムである *BlueServo* に参加しています。それは、積極的に国境犯罪を取り締まる権限を与えられた市民とのパートナーシップにより革新的リアルタイム監視プログラムを実現していこうとするものです。TBSC *BlueServo* 映像監視は、[www.BlueServo.net](http://www.BlueServo.net) にテキサス州とメキシコの国境のライブ映像を送るためにカメラやセンサーをネットワークでつなげています。ユーザーは *BlueServo* にログインし、この '仮想フェンス' を介して、国境付近の犯罪行為を直接監視することができるのです。

#### 【今後の取り組み】

リックペリー州知事は、刑事司法許可基金としてまず 200 万ドルを提供したが、はじめは成功しなかった。当初の計画では、クラウドソース技術の成果として少なくとも 1200 人を逮捕できる試算だったが、わずか数人の逮捕者が出ただけで終わった。いまや、その状況は一変し、監視カメラのおかげで多くの不法入国者が減ってきている。

犯罪の抑止という意味でのクラウドソースは、主に大都市で、犯人の身元やその傾向を知るために多くのアプリケーションを使っていたが、今は市民参加という新しい形で、世界中から犯罪を追跡することができるような時代になったといえるのである。